



NIIGATA SEIRYO

式 辞

本日、継灯式を迎えられた看護学部看護学科2年生96名の皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんが掲げた「新たな決意と強い意志を胸に、看護の道を歩んでいきます」という誓いの言葉は、大変力強く、心を打たれるものでした。キャンドルに灯る光と、皆さんの真剣なまなざしが呼応し合い、この会場を希望の光で満たしていました。その姿は、看護師を目指す者としての自覚と責任に満ちており、実に頼もしく感じられました。これまで皆さんを支えてこられたご家族の皆様にとっても、感慨深く、誇らしい瞬間であったことでしょう。

継灯式は、単なる通過儀礼ではありません。これは、皆さんが看護のプロフェッショナルとしての第一歩を踏み出す、大きな節目であり、将来の自分を励ます心の支柱ともなる出来事です。臨地実習の困難に直面したとき、国家試験の重圧に挑むとき、さらには看護職として社会に羽ばたいた後にも、今日の誓いが、皆さんを奮い立たせる力になることを願っています。

近代看護教育の礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールは、次のような言葉を遺しています。

「どんな仕事をするにせよ、実際に学ぶことができるのは現場においてのみである」

まもなく始まる臨地実習において、皆さんはこの言葉の意味をまさに実感されることでしょう。教室や書物から得た知識の真価が問われ、現場の現実と向き合う中で、戸惑いや不安を感じることもあるかもしれませんが、皆さんには、

同じ志を持つ仲間がいます。そして、皆さんの成長を温かく見守り、ときに厳しく導いてくださる教員がおります。どうか、恐れることなく対象者と真摯に向き合い、思いやりの心を大切に、相手の立場に寄り添う看護の実践に努めてください。

実習では、目の前の現実を単なる経験にとどめるのではなく、科学的に情報を収集・分析し、論理的に思考し、倫理的な視点で判断する力が求められます。そして、何が最善の対応であるかを考え、仲間と議論し、指導者に相談する。そのような積み重ねの中でこそ、教科書では得られない「実践知」が養われていくのです。

この継灯式が、皆さんの専門職としての歩みをさらに力強く後押しするものであることを信じています。これからの実習において、多くの学びと気づきを得られるよう、心から期待しています。

結びに、皆さんの健闘と成長を心より祈念し、式辞といたします。

2025年5月10日

新潟青陵大学
学長 木村 哲夫